

## 2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔整応用実技 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	1 (30) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
臨地実習を行うにあたって必要となる医療面接技法、体表観察技法(主要な骨、筋の触知)、身体診察法(身体計測、関節可動域、徒手筋力テスト、臨床徒手検査法、反射検査、感覚検査、運動機能検査)の修得を目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 解剖学						
《授業外における学習方法》						
身体各部の主要な構造(6大関節を中心に)を触知できるように予復習を行う。 主要な身体計測(BMI・四肢長・四肢周径)、関節可動域(6大関節)、MMT(6大関節)を行うことができるように予復習を行う。 主要な徒手検査法、反射検査、感覚検査、運動機能検査を行うことができるように予復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
実習に参加するにあたって、実際の患者に対して実習指導者がどのように損傷を評価しているかを理解するために必要なことがつまっています。すべての講義に参加して取りこぼしの内容にしていきたいと思います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習前評価について理解する。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	解剖学、柔道整復学の予復習	
		各コマにおける授業予定	講義ガイダンス、臨床実習前評価試験について			
第2回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	身体各部の主要な骨、筋を触知できるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学		
		各コマにおける授業予定	主要な骨の触知			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	身体各部の主要な骨、筋を触知できるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学		
		各コマにおける授業予定	主要な骨の触知			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	身体各部の主要な骨、筋を触知できるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学		
		各コマにおける授業予定	主要な筋の触知			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	身体各部の主要な骨、筋を触知できるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学		
		各コマにおける授業予定	主要な筋の触知			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	身体計測(BMI・四肢長・四肢周径)ができるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	身体計測の実施		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	反射、感覚、運動機能検査ができるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	各種検査法の実施		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	反射、感覚、運動機能検査ができるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	各種検査法の実施		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床徒手検査法ができるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	頸部の検査法(ジャクソンテスト、スパーリングテスト) 上肢の検査法(ヤーガソンテスト、スピードテスト、インピンジメントテスト、ペインフルアークサイン、トムゼンテスト、ファレンテスト、フィンケルシュタインテスト、チネル徴候)		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床徒手検査法ができるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	上肢の検査法(ヤーガソンテスト、スピードテスト、インピンジメントテスト、ペインフルアークサイン、トムゼンテスト、ファレンテスト、フィンケルシュタインテスト、チネル徴候)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床徒手検査法ができるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	下肢の検査法(SLRテスト、FNSテスト、ケンブ徴候、トーマステスト、マックマレーテスト、ラックマンテスト、前方引き出し徴候、後方押し込み徴候、側方動揺テスト、膝蓋跳動テスト)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床徒手検査法ができるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	下肢の検査法(SLRテスト、FNSテスト、ケンブ徴候、トーマステスト、マックマレーテスト、ラックマンテスト、前方引き出し徴候、後方押し込み徴候、側方動揺テスト、膝蓋跳動テスト)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療面接ができるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	適切なコミュニケーションの実施		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	本講義で習ったことが実践できるようになる。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	復習		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習前評価試験に合格する。	臨床(地)実習ガイドライン 柔道整復学・理論編・実技編 解剖学	
		各コマにおける授業予定	定期試験		